

令和4年3月28日
琉球大学学長選考会議

国立大学法人琉球大学学長の業務執行状況の確認結果について

琉球大学学長選考会議は、国立大学法人琉球大学学長の業務執行状況の確認に関する申合せ（平成30年6月14日学長選考会議決定）に基づき、令和3年12月16日に、学長の業務執行状況の確認を実施した。確認方法は、学長による業務執行状況の説明及び選考会議委員からの質疑により行った。資料は学長が作成した業務報告書を参照した。

学長の業務執行状況の確認結果は、以下のとおりである。

記

学長は前回の業務報告書を提出した令和2年12月18日以降これまで、大学の本質を堅持しつつ、「地域とともに未来社会をデザインする大学」「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点となる大学」として、地域・社会に対する貢献への期待に積極的に答えていくという基本姿勢で業務執行にあたっている。

令和2年からの新型コロナウイルス感染症へのきめ細やかな対応を継続しつつ、令和3年は、教育、研究、地域・社会貢献、医療等の本学の基本的な活動を実施し、多くの成果が得られたことが確認できた。

令和4年度から始まる第4期中期目標・中期計画の策定と関連付けて「中期将来ビジョン」を策定しており、学内外に国立大学法人琉球大学の方向性を示すことができたことは大きな成果であり、今後の具体的な取組に期待ができるものである。

ガバナンスとしては、学長のリーダーシップのもと「デジタルキャンパス方針」や「働き方改革」等を特定課題として位置づけ、法人としての適切な課題選択と検討体制が構築されており、時代の要請に沿った対応がなされている。

さらには、教育と研究においても、地域共創研究科の設置など教育研究組織の強化、各種プログラム（プロジェクト）の採択や選定、大型の補助金獲得と多くの実績があった。加えて、学生や新任教員等との懇談を実施し、コミュニケーションの促進と意見を聴き教育研究または大学運営の改善に繋げていこうとする姿勢は高く評価でき、継続していただくことが重要である。新型コロナウイルス禍においても対面での教育プログラムと COIL を活用した教育プログラムを駆使し、教育のグローバル化を推進していく姿勢が窺える。

また、沖縄県振興審議会の会長、大学コンソーシアム沖縄の代表理事、沖縄産学官協働人材育成円卓会議の代表などを務め、琉球大学のプレゼンスを示すと共に県内大学の束ね役、自治体や企業等との連携の要として重要な役割を果たしている。

よって、学長は現在に至るまで、その業務を適切に執行していると認められる。

以上

【学長選考会議における主な所見】

- ・中期計画を着実に進捗させ、特に法人評価の「財務内容の改善」において「中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある」との評価を受けており、かつ中期将来ビジョンを策定し、琉球大学の発展のために、様々な検討がなされている。
- ・人事給与マネジメント改革として実施している教員業績評価制度は非常に合理的なシステムと評価しており、このような施策を実行しないと大学運営が成り立たないところもあることから、学長として適切にリーダーシップを発揮していると判断する。
- ・医学部・病院のキャンパス移転計画が着実に進められており、償還計画も妥当であると判断される。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応が適切になされ、ワクチン大学拠点接種の実施、病院における重症患者を含めた受け入れや DMAT 等の医療人材の地域への派遣など、地域の感染対策に大きな役割を果たしている。
- ・首里城再興学術ネットワークの活動を通じて首里城復興を後押ししており、地域貢献を果たしている。
- ・学長として沖縄県振興審議会の会長、沖縄の産業振興の在り方検討会の委員長、大学コンソーシアム沖縄の代表理事、沖縄産学官協働人材育成円卓会議の代表を務め、地域連携を果たされていることを高く評価する。
- ・地域共創研究科を設置するなど、特色ある大学院教育の向上に努めている。
- ・琉球大学で例がなかったような大型研究費の獲得は大きな実績（成果）であるとともに、教育のみならず研究も強力で推進していく雰囲気を作っている。
- ・学生や教員と丁寧かつ積極的に対話をして意見を聴取し、細やかな調整をしながらリーダーシップを取っており、そのようなことでガバナンスをうまく発揮した運営がなされている。
- ・厳しい財政状況のなか、学生・教職員の要望や運営費交付金などの財源についてバランスを取りながら最善を尽くしている。
- ・琉大ブランドやユネスコ自然遺産登録など学内の事柄に関する情報発信がしっかりなされている。
- ・琉球大学が「これからどうしていくか」ということについて、簡潔な言葉で教職員と意識共有できるようなことを行って欲しい。
- ・琉球大学の地理的な特徴・特色をもとにこれまで培ったグローバルネットワークを活かし、さらに特色ある・魅力ある教育や大学運営を期待する。また、教育のグローバル化に当たりクォーター制のような積極的なシステムを考えていただきたい。
- ・学部アイデンティティを尊重している反面、新型コロナウイルス感染症への対応や教員業績評価システムの策定などにおいて、学部に委ねることが多々あり、苦慮することがあったため、学長や理事の指導・助言又は学部が相談しやすい体制の構築を期待する。
- ・国立大学法人は予算や研究のアクティビティなど、KPI などの数値化が求められていることから、数値化したものを過年度と比較して状況等を説明してもらうことが必要であり、そのことから各界からの知恵や支援をいただくことができる。

- 理科数学の人材育成などは本学でしかできないことであり、今後の時代の転換期で1番重要になることが「人材育成」であることを踏まえ、将来的な「人を作る」ということにも知恵と力を発揮していただきたい。
- 学部長等との懇談の機会をもう少し増やしていただきたい。